

本市のいじめの現状は

問 大津市のいじめ自殺問題を教訓とし、本市の場合、いじめの防止及び起こった際の具体的な対策はどうなっているか。

答 教育委員会では、毎年市内全小中学校の児童生徒の保護者を対象にいじめに関するアンケートを実施している。昨年度は24件の訴えがあったが全て解決済み。その他校長会議等を通じていじめ対応マニュアルや事例集の提供を行っている。各学校でも日常観察や児童生徒へのアンケートや

職員会議での情報共有、研修等を実施し、未然防止に努めている。仮にいじめが起こった際は、学校で児童生徒が教育相談出来る体制を構築しており、実態に合わせた組織的な対応を行っている。

問 文科省ではいじめ実態調査を行ったが、本市の状況は。

答 本年4月から8月にかけてのいじめ認知件数は、小中学校とものおおの20件程で、調査段階でのいじめ解消率は7割程である。内容は冷やかしたりからかい、悪口や脅し文句、嫌な事を言われるなどが全体の6割で、仲間はずれ、集団による無視が3割である。各学校ではそれぞれのケースに応じ、教育相談や日常の声掛け、家庭訪問、保護者や

関係機関等との連携、学級や集団への指導等を通じていじめの解消を図っており、教育委員会も各学校に支援・指導を行っている。

問 幼児期から高校までの教育全体における総合的な環境整備の具体的なビジョンや実績は。

答 「遠野市わらすつこ教育環境整備ビジョン」を掲げ、各発達段階での整備の方向性を示している。本年4月には子育て総合支援センター及び教育委員会が市役所本庁舎西館に移転し、市保育協会の御協力も頂き「元気わらすつこセンター」という一つの拠点の中で、情報共有や相互支援に努めている。

析と今後の2高校堅持の具体的な対策は。

答 市内外とも中学校卒業生の2高校への出願率が低かった事が原因と分析している。今後は、市立中学校と市内2高校を繋ぐ組織と

して「学校連絡会議」を年内に立ち上げ、連携を強化していきたい。

その他の質問
●小水力発電を活用したまちづくりについて



萩野 幸弘 議員
(緑風会)

問 今春地元2高校が定員割れとなったが、本市の分



いじめの根絶は早期対応が不可欠 (写真はイメージ)

一問一答
方式